

山形県長井市・岩手県奥州市・宮城県白石市
「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結



協定書を取り交わした(左から)長井市の内容重治市長、風間市長、奥州市の小沢昌記市長

ダムがつかない新たな連携
「中距離間トライアングル」で相互支援

5月17日、本市と山形県長井市、岩手県奥州市の3市が「大規模災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。この協定は、地震や風水害などの大規模災害が発生した時、物資の提供や復旧・復興に必要な人材の派遣、避難者の受け入れなどを相互に行うものです。

協定締結は、3市長が「東北ダム事業促進連絡協議会」の正副会長を務めていたことがきっかけ。東日本大震災の教訓から、「陸路で2時間圏内の距離に位置し、太平洋側と日本海側にあるなどバランスも良く、迅速・確実な支援が期待できる」として、昨年秋から締結を検討してきました。

宮城県庁で行われた締結式で、奥州市の小沢昌記市長は、「災害が大規模化しており、中距離の自治体の連携が重要」と締結の意義を強調。長井市の内容重治市長は、「協定を機に、互いの市民が関心を持ち、災害時だけでなく市民同士の交流も深めていきたい」と話し、風間市長も「この協定により、それぞれの市民に安心感を届けることができる。平時の地域交流も深めていきたい」と、市民間の交流にも期待を寄せました。

協定では食料や飲料水、毛布、医薬品など平時から相互に確保しておく物資をあらかじめ指定したほか、人的支援や被災者の受け入れなどを通して、避難生活や復旧・復興を迅速にサポートする体制を整えました。

平成22年4月に、姉妹都市である登別・海老名両市と締結したトライアングル応援協定は、東日本大震災時に大きな力を発揮しました。これは市民同士の平時からの交流によるところが大きかったとも言われています。長井・奥州の両市とも平時の交流が活発に行われ、どんな災害にも負けない「絆」が育まれていることが期待されます。



■山形県長井市

山形県南部に位置し、面積214.69km²、人口約3万人。酒田から最上川を經由して米沢に至る舟運の港町として栄えた商業都市。朝日・飯豊・出羽の緑豊かな山系に囲まれ、「水と緑と花の長井」をキャッチコピーに、あやめ公園や白つつじ公園、久保桜などの観光名所がある。また、映画『スウィングガールズ』に登場するフラワー長井線が通る。最上川水系賜野川に長井ダムがある。

■岩手県奥州市

岩手県南部に位置し、面積993.35km²、人口約12万5千人。平成18年、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の5市町村が合併して誕生。県内第3位の面積を有する。「蘇民祭」で有名な黒石寺や、えさし藤原の郷などの平安ロマン薫る名所のほか、前沢牛などの農業、南部鉄器などの伝統産業が盛ん。北上川水系胆沢川に石淵ダムがあり、その下流に平成25年度完成予定の胆沢ダムがある。

特集
復興への道程

一日も早い生活の再生と地域産業の再建を目指して
「白石市東日本大震災復興計画」を推進!



復旧・復興事業全般に関する
問い合わせ先
復興対策室 ☎22-1561

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6

1_足場が組まれる白石城北側(6月7日撮影) 2_白石城復旧工事を担当する齋藤則企画情報課主幹 3_津波の被害を受けた名取市の農家が白石で再起 4_復旧を終えた東中学校グラウンド(6月10日撮影) 5_道路工事が進められた城南地区(1月6日撮影) 6_道路復旧工事を担当する高橋雄一建設課土木係長

▶平成23年5月10日、国や県の担当職員立ち会いの下、市道の災害査定が行われ、本格的な復旧工事がスタートした



Act.1
図る
Plan

白石の要望を国や県にさらに働き掛けていきます



白石市復興対策室 主幹 日下 忠績

今回の震災は、白石市始まって以来の大災害となりましたが、国の復興特区制度や復興交付金などの支援を受けようとすると、どうしても被害が部分的・限定的だと見なされがちで、支援を受けにくい傾向にあります。

しかし、少しでも早く、被災された皆さんが震災前の生活を取り戻し、白石市が安心して快適に過ごせるまちとなるよう知恵を絞り、国や県などの支援も最大限引き出しながら、全力を尽くしていきたいと思えます。

がんばっぺ白石！

●各種被災者生活再建支援制度などの状況(平成24年5月31日現在)

支援制度	支援制度の状況
災害弔慰金	死亡者4名該当
災害援護資金の貸付	申請28件 貸付額4,420万円
生活復興支援資金貸付	申請1件 貸付額100万円
市県民税の減免	申請255件 減免額1,318万7,726円
固定資産税の減免	申請660件 減免額2,697万9,200円
都市計画税の減免	申請456件 減免額349万5,200円
国民健康保険税の減免	申請335件 減免額3,000万2,600円
後期高齢者医療保険料の減免	申請357件 減免額1,158万8,100円
介護保険料の減免	申請477件 減免額1,011万4,500円
国民年金保険料の減免	平成22年度分20件、平成23年度分235件 計255件
国民健康保健医療費の免除	申請310世帯579人
後期高齢者医療費自己負担金の免除	申請384人
特定健診受診料の還付	申請71人
介護保険サービス利用料の減免	100%減免6人、95%減免61人 計67人申請
保育園保育料の減免	平成23年度園児15名申請 減免額225万7,100円 平成24年度園児18名申請 減免額264万1,800円
幼稚園の就園奨励事業	公立幼稚園児8名、私立幼稚園児1名申請
小中学生の就学援助制度	平成23年度分小学生37名、中学生15名申請 平成24年度分小学生27名、中学生12名申請
児童扶養手当・特別児童扶養手当所得制限緩和	申請6件
損壊家屋の解体処分	居宅分申請154棟 拡大分(居宅以外)申請235棟
被災者生活再建支援金	延べ申請303件 申請額3億5,850万円
住宅の応急修理制度	申請235件 決定済み183件 9,145万3,419円
住宅災害復旧等補助金	申請466件 決定済み432件 3,338万8,000円
宅地災害復旧補助金	申請32件 決定済み31件 393万5,000円
応急仮設住宅(民間賃貸住宅)借り上げ	申請延べ253件755人(市民107件310人・福島県民140件426人・その他6件19人)
東日本大震災義援金	支給済み688世帯 3億9,161万1,800円

「白石市東日本大震災復興計画」をもとに
ライフラインの早期復旧を目指すとともに
市民生活や産業、経済の再生を図る

●住家被害(平成24年5月1日現在)

被害区分	世帯数	全世帯中の割合
全壊・全焼	49世帯	0.4%
大規模半壊	94世帯	0.7%
半壊	522世帯	3.8%
一部損壊	2,165世帯	15.6%
合計	2,830世帯	20.3%

※平成23年3月11日現在13,915世帯

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、1年3カ月以上経過した今もまだ、白石に大きな爪痕を残している。震災で4名の方が亡くなられたことをはじめ、住家は約20%、約5世帯に1世帯が少なからず被害を受け、多くの方が支援制度などを受けている(左ページ参照)。また、平成24年3月末現在、自宅が被災し仮住まいで過ごす市民の方は114世帯338人、宮城県内からの避難者は32世帯98人、福島県からの避難者が178世帯530人、合計で約千人の方々も今なお、仮

白石市東日本大震災復興計画の概要

－震災復興計画スローガン 「がんばっぺ白石」－

基本目標1＝市民生活の再生

震災により被害を受けた市民、特に高齢者や障害者に配慮し、被災住宅の再建やライフラインなどの復旧を進め、社会生活基盤の再生復興を図ります。また、保健・医療・福祉の連携充実、さらに自治会や自主防災組織の支援などを通じて被災者の健康管理や互いに支え合う地域づくりを支援します。

基本目標2＝産業・経済の再生

震災による風評被害や自粛ムードを払拭し、イベントなど各種情報発信による観光産業を軸とした地域経済サイクルの早期復興を目指します。また、農林業などの生産基盤の復旧や被災事業所の生産基盤の復旧支援により新たな産業の振興を図り、雇用の創出・確保や農産物の販売促進など、活力ある産業構造の構築を推進します。

基本目標3＝防災のまちづくり(地域防災計画強化)

今回の震災で得られた課題を整理・検証し、さらに安心して安全な住みよいまちづくりを目指すため、「地域防災計画」を再検討し、その強化を図ります。また、市民の防災意識の高揚を図るため、自主防災組織などの拡充支援や関係機関等との連携強化を図ります。



復旧・復興の目標期間

1. 復旧期
【平成25年度まで(震災からおおむね3年間)】
生活や産業の再開に不可欠な住宅、生産基盤、インフラなどの復旧に加え、再生・発展に向けた準備を進める期間。
2. 再生期
【平成27年度まで(震災からおおむね5年間)】
復旧された生活基盤やインフラ、そして市民と行政の協働により震災前の活力を回復し、地域の価値を高めていく期間。
3. 発展期
【平成29年度まで(震災からおおむね7年間)】
白石市が、新たな魅力と活力ある地域として「第5次白石市総合計画」の目指す将来像に向けて、「復旧」という基礎を築くとき、強い土台を築くことで、次への大きなステップにしたいと考えている。

住まいでの生活を余儀なくされている。「道路などの復旧もなかなか思うように進んでいないのでは？」というのが市民の皆さんの率直な意見かもしれないが、今回の震災は広範囲に被害が及んでいるため、被災箇所もその被害状況も、これまで経験したことのないほど大きいのだ。その上、国や県の支援も白石より被害の大きい沿岸部にウエートがおかれていることなどが、復興に時間を要している最大の要因である。

東日本大震災復興計画」を策定。この計画をもとに、道路などの公共施設の復旧とともに、市民生活や産業、経済の再生に取り組んでいる。また、要望などを国や県に強く働き掛けながら、災害復旧や復興のための支援制度を最大限に活用し、一日も早い震災からの復旧・復興を図り、安心して快適に過ごせるまち「白石」となるよう、全力を尽くしている。

早期復旧に向けて
全力を尽くします



白石市建設課
土木係長 高橋 雄一

市では、震災直後から市内のパトロールを開始し、道路などの被害状況を調査しました。多くの箇所が道路が陥没し、中には大規模に崩壊している箇所もあり、被害の甚大さが目立ちました。

今まで経験したことのない災害に、どう対処していくべきか不安な部分もありましたが、多くの方々にご協力をいただき、平成23年度中に災害査定を終えました。現在、復旧工事を行っているところですが、すべての工事を終えるにはまだまだ時間がかかり、皆さまには大変ご迷惑をお掛けします。早期復旧に向けて全力を尽くしますので、ご理解をお願いします。

●平成24年5月までに復旧した主な路線

地区名	箇所名
白石	緑が丘団地2号・17号線、鷹巣三沢線、中央通り線、新館線、南小路線、虎子沢山1号線、鷹巣東6号・8号線、山口線、白石田中線、鷹巣中線、鳥喰北無双作線
越河	越河線、新田線
斎川	甲冑堂線
大平	城南二丁目1号線
白川	平栗山崎線、大新田線
福岡	コスモスライン線(一部)、細野線、中丸線、鎌先4号線、西沢線、後小路線
小原	江志前材木岩線、藤坂六角線

●補助災害の農業用施設(道路・水路・ため池・農地など)の復旧状況

地区名	箇所名	工種	被災内容	復旧状況・見込み	
白川	佐野(1)	道路	路面亀裂、陥没	復旧済み	
	佐野(2)	ため池	護岸擁壁崩壊	復旧済み	
	内親	水路	護岸ブロック崩壊	復旧済み	
白石	長泥西沢	道路	路面亀裂、陥没	復旧済み	
	松ヶ丘	水路	水路底版隆起、柵渠破損	復旧済み	
斎川	石神	道路	路面亀裂、陥没	平成24年12月末復旧	
	鹿ノ子	ため池	護岸破損、堤体亀裂	平成24年12月末復旧	
福岡	大平	内田	道路	路面亀裂、陥没	復旧済み
	福岡	河童屋敷	道路	路面亀裂、陥没	平成24年12月末復旧
		桜ヶ丘	道路	路面亀裂、陥没	復旧済み
		菅生田	道路	路面亀裂、陥没	平成24年12月末復旧
五郎代山	農地	草地面崩土	復旧済み		

●農業集落排水の被災箇所

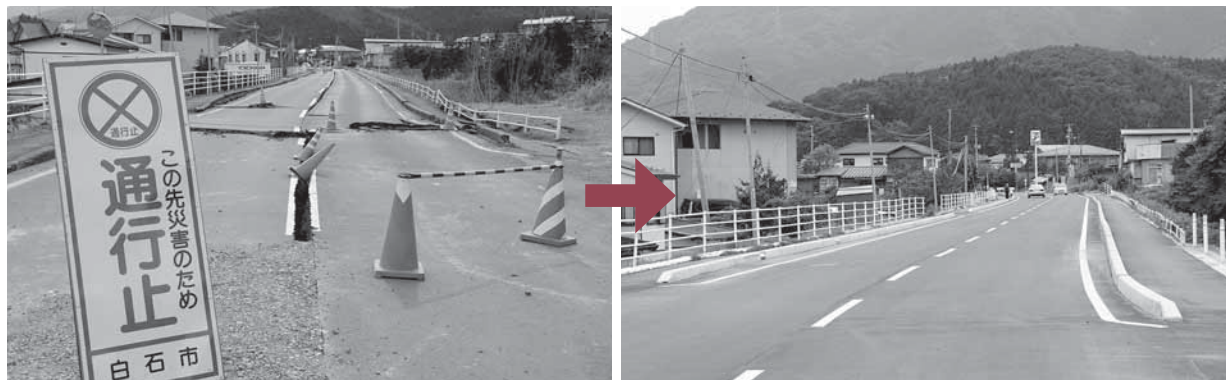
地区名	施工箇所	復旧状況・見込み
斎川	斎川字新町尻地内	復旧済み
福岡(薬師堂地区)	福岡蔵本字新菅生田地内(汚水管・処理場舗装他)、福岡蔵本字新菅生田地内(機械設備工事)	復旧済み
越河	越河五賀字下田地内	復旧済み
	越河字小坂入地内ほか	平成24年7月末復旧

●公共下水道の主な被災地区
(平成25年1月末まで全地区の復旧を予定)

地区名	施工箇所
白石	南町地区
	田町地区
	鷹巣東地区
	字銚子ヶ森地区
	東町地区
	旭町地区
	八幡町地区
	郡山雨ヶ作地区(復旧済み)
松ヶ丘地区	
大平	大平森合地区
福岡	福岡蔵本字西町地区(復旧済み)
大鷹沢	大鷹沢大町地区



▲平成24年2月に工事を完了した東中学校北側(鷹巣側)



▲平成24年6月に工事を完了した中央通り線(旧国道4号)

公共下水道は平成25年1月末
道路は平成26年3月末までの復旧を目指す
主な公共施設の被害と復旧状況

復興に欠かせないのが、道路や上下水道、公共施設などの復旧だ。
市が管理する道路や河川の復旧予算は、約20億8千万円。震災により市内全域で道路の陥没や亀裂、地滑りなどの被害があったが、昨年夏以降の本格的な復旧工事により、現在の通行止め路線は、コスモスライン線(福岡・小久保平原線(小原)の2路線のみとなっている。
具体的には、「補助災害(国災)」と呼ばれる、補助金など国の財政支援制度のある比較的大規模の大きな災害に認定された被害箇所が138カ所、被災延長は37.3kmとなっている。平成24年5月末までに69カ所の工事を発注し、うち36カ所の復旧を終えた。今後は、残り33カ所と新たに発注する69カ所の工事を行い、平成25年3月末までの復旧を目指している。
このほか「単独災害」と呼ばれる、比較的規模の小さな被害箇所が103カ所あり、補助災害復旧工事が終わり次第、順次工事を行い、平成26年3月末までに復旧を終える予定である。
林業施設(林道)は小原新町林道が被災。その復旧予算は約600万円、平成24年3月末までに復旧を終えた。
また、農業用施設(道路・水路・

ため池・農地など)の被害箇所は、補助災害が12カ所、単独災害が28カ所あり、復旧予算は約9,300万円。補助災害は12カ所中、平成24年6月末までに8カ所の復旧を終えた。残り4カ所は平成24年12月末までに終える予定である。単独災害の28カ所は、補助災害復旧工事が終わり次第、順次工事を行い、平成26年3月末までの復旧を予定している。
公共下水道は、管路延長の7.65%に当たる約12.5kmが被害を受け、復旧予算は約9億6,700万円に上る。そのうち、福岡蔵本字西町地区と郡山雨ヶ作地区の2地区は工事が完了。残りの地区は、平成25年1月末までの復旧を目指している。農業用集落排水は3地区が被災。復旧延長は585m、復旧予算は約7,400万円。白石地区と福岡地区、越河地区の一部は復旧を終え、越河地区の残りは平成25年1月末までの復旧を目指している。
上水道施設の復旧予算は約7,700万円。本管漏水処理が70カ所、本管損傷布設替の総延長は約2kmに及んだが、平成24年6月末までにほとんどの工事が完了。現在、老朽化した配水管を地震に強い管に入れ替える工事を行っている。



▶1メートル以上隆起したマンホールも徐々に復旧(東町三丁目地内)

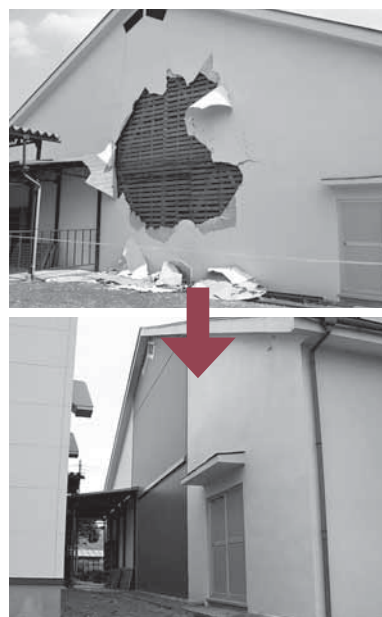


復興への道程

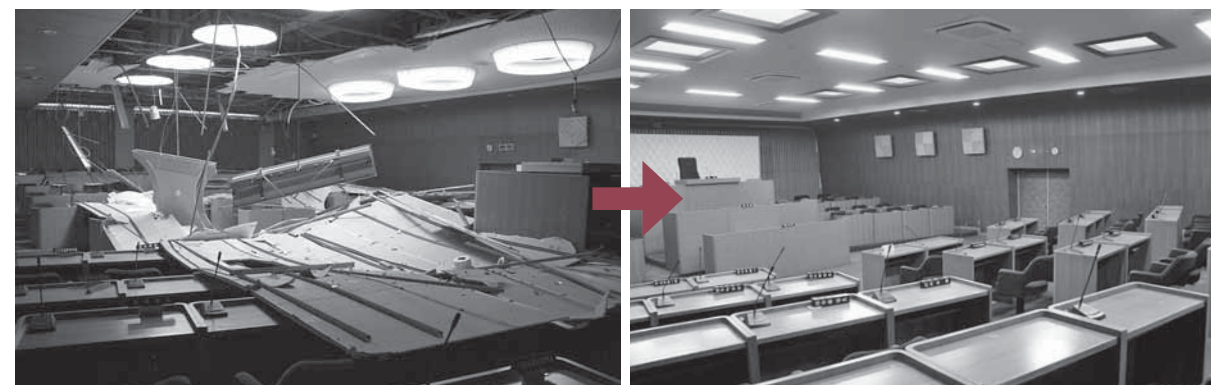
●文化・体育施設関係

☆復旧済みの主な施設

施設名	被害内容
あしたば白石	施設・設備・備品破損、漏水
緑が丘テニスコート	地盤沈下、地滑り、側溝損壊
奥州街道ふれあいの館	屋根・棟瓦の破損など
鷹巣地区コミュニティーセンター	集会室天井照明破損など
中央公民館	ホール天井、エレベーター、各棟つなぎ目等損壊
越河公民館	壁面ひび割れ
斎川公民館	壁面亀裂多数、敷地内亀裂多数、LPG保管倒壊
白川公民館	壁落下・亀裂多数、敷地内亀裂、浄化槽破損
福岡公民館	壁亀裂多数
深谷公民館	水道管破裂漏水、地面亀裂、備品・展示品破損
小原公民館	水道管破裂漏水、地面亀裂、外壁落下、浄化槽破損
資料整理室	土器破損、壁面亀裂など
白石市図書館	外壁等施設破損
白石市情報センター	施設、設備、備品破損



▲復旧を終えた深谷小学校体育館



▲平成23年11月に工事を完了した白石市役所5階議場

Act.2
戻す
Recover

学校・保育施設は平成24年3月までに復旧を完了 白石城は9月末、碧水園茶室は12月末までの復旧を目指す

☆現在復旧作業中または一部使用不可の箇所がある施設

施設名	被害内容	現況・使用不能箇所など	復旧見込み
白石城	壁の崩落、ひび割れ、瓦の破損など	入館休止中（指定日に内部見学会を開催）	平成24年9月末復旧
碧水園	茶室、庭園、能楽堂の損壊	茶室のみ使用不可	平成24年12月末復旧
武家屋敷（旧小関家）	土壁の亀裂など	使用制限なし	平成24年12月末復旧
ホワイトキューブ	給排水配管損壊、スライディングウォール・パイプオルガン・屋根破損など	使用制限なし	平成25年3月末復旧
スパッシュランドしろいし	プール天井・バーデゾーン天井損壊、柱・壁のひび割れ	バーデゾーンのみ利用不可	平成24年9月末復旧
白石市スポーツセンター	基礎部分と土地間の隙間、跨線橋下駐車場亀裂、陥没	跨線橋下駐車場使用不可	平成24年9月末復旧
大鷹沢公民館	地盤陥没2カ所	使用制限なし	平成24年9月末復旧

●観光施設関係

☆復旧済みの施設

施設名	被害内容
小原遊歩道	歩道面の陥没
やまぶき亭（商家資料館）	室内の壁一部落下
弥治郎こけし村	浄化槽が隆起
白石スキー場	クワットリフト一部破損、駐車場の一部にひび割れ（65m）、センターハウス一部壁落下

☆現在復旧作業中または一部使用不可の箇所がある施設

施設名	被害内容	現況・使用不能箇所等	復旧見込み
壽丸屋敷	室内外の土壁落下20カ所程度（壽丸屋敷）、柱傾斜・梁亀裂（店蔵）	店蔵立ち入り禁止	平成24年12月末復旧

●公園関係

施設名	被害内容	復旧見込み
緑が丘第一公園	法面崩壊	平成24年7月末復旧
松ヶ丘第一公園	地割れ	復旧済み
白石川サッカー公園	地盤隆起・沈降	復旧済み
緑が丘第四公園ほか20カ所	法面崩壊など	復旧済み
検断屋敷	建物損壊	復旧済み



▲復旧を終えた白石川サッカー公園

幼稚園・小中学校・学校給食センターなどの学校施設関係の復旧予算は約9,600万円。ほとんどの小中学校が被災したが、平成24年3月までに復旧を終えた。また、保育園・児童館の復旧予算は約200万円。すべての保育園が被災したが、こちらも平成24年3月までに復旧を終えた。市役所庁舎関係の復旧予算は約3,500万円。議場の修繕などは復旧を終え、庁舎の亀裂補修は平成24年12月末までに終える予定である。

総合福祉センターなどの福祉施設関係の復旧予算は約250万円。駐車場亀裂などの復旧工事を平成24年3月までに終えた。消防団ポンプ小屋などの消防施設関係の復旧予算は約600万円。消防団ポンプ小屋が13カ所、防火貯水槽が5カ所被災したが、平成24年3月までに復旧を終えた。白石スキー場や弥治郎こけし村などの観光施設関係の復旧予算は約3,400万円。復旧済みの施設は4カ所で、壽丸屋敷は現在、復旧工事のため店蔵への立ち入りを禁止している。

公園関係の復旧予算は約1億6,300万円。復旧済みの公園は、白石川サッカー公園など4カ所。緑が丘第一公園は平成24年7月末に復旧を終える

●学校施設（小学校・中学校・幼稚園・学校給食センター）

【すべて復旧済み】

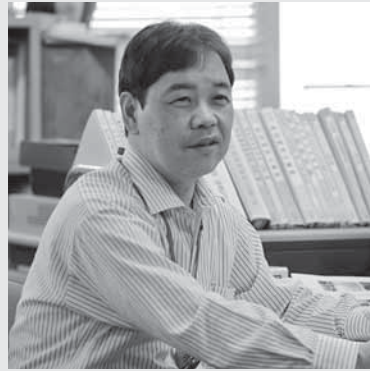
施設名	被害内容
第一小学校	音楽準備室壁破損、玄関付け根部亀裂、体育館ブレース破損
第二小学校	体育館西側駐車場舗装破損、灯油地下タンク隆起など
越河小学校	天井破損
斎川小学校	校舎周辺舗装・体育館外壁・ブレース破損
大平小学校	体育館南側外壁破損
大鷹沢小学校	校舎ガラスブロック・学校進入道路擁壁破損、駐車場亀裂、花壇沈下
白川小学校	東側非常階段沈下、南西テラス沈下、北側渡り廊下沈下
福岡小学校	水道管漏水
深谷小学校	体育館外壁・石積み擁壁破損
小原小学校	体育館東側軒天落下、体育館ステージ内壁破損
福岡小八宮分校	体育館外壁破損
白石中学校	灯油地下タンク周辺隆起、体育館外壁破損
東中学校	天井一部落下、校庭・法面の崩壊
南中学校	体育館天井破損
福岡中学校	校舎エキスパンション部破損、校舎壁亀裂
小原中学校	校舎玄関インターロッキングブロック舗装破損
第一幼稚園	外壁破損
第二幼稚園	園舎・園舎周辺の一部損壊、水道漏水
学校給食センター	調理室天井防火板一部欠損、受水槽亀裂

予定である。白石城やホワイトキューブ、図書館、碧水園、公民館などの文化・体育施設関係の復旧予算は約5億4,200万円。復旧済みの施設は16カ所。現在、復旧工事中または一部使用不可の箇所がある施設が7カ所ある。いずれの施設も平成24年度中の復旧を目指している。

特に、白石城の復旧工事は、10月6日（土）開催予定の「鬼小十郎まつり」前の完成を目指して進められている。

●保育園・児童館関係【すべて復旧済み】

施設名	被害内容
東保育園	壁・天井ひび割れ
西保育園	壁・天井ひび割れ
南保育園	北側入り口地盤沈下、保育室アクリル戸落下
北保育園	壁亀裂・ひび割れ、屋根雨漏り
越河保育園	壁亀裂・ひび割れ・隙間、石積みブロック亀裂
深谷保育園	北側門扉支柱沈下、堀崩壊
白川保育園	壁ひび割れ、水道管破損
大鷹沢保育園	壁ひび割れ・隙間
第二児童館	玄関ポーチ・犬走りひび割れ、漏水



白石市企画情報課
主幹 齋 勝則

全国からの支援に感謝します

白石城の復旧に対して、全国の皆さまからたくさんの温かい言葉やご寄付をいただき心から感謝しています。皆さまの心に届けるためにも、10月6日開催予定の鬼小十郎まつりまで工事を完了するよう努めています。

現在、工事のため通常の見学は休止していますが、日曜日に開催している白石城内部の工事見学は、北海道や関西からもおいでいただいております。8月からは外部も見学できるよう専用の足場を設ける予定です。この機会に日本の伝統工法による修繕の様子をぜひご覧ください。

見学会の日時などの詳細は、白石城ホームページでご確認ください。

白石城復旧工事が国の財政措置決定 白石城復興寄付金は「白石城基金」として活用を図る



▲平成24年9月末の完成を目指して進めている工事。8月からは足場が上がっての見学も可能に

白石城の復旧工事は、白石城が文化財などに指定されていないことなどを理由に、国の補助制度などが活用できなかった。こうしたことから平成23年7月、白石城の災害復旧財源として活用させていただく目的で寄付金の受け付けを開始した。しかし、再三の働き掛けにより、平成24年3月27日、国の補正予算で財政措置を受けられることが決定。今後は、白石城復興寄付金は「白石城基金」として積み立て、寄付された方々の意向を尊重した活用方法を検討していく。

全国から寄せられた皆さんの心に届けるためにも、震災前以上の活気を生み出す覚悟で、白石の復興に取り組んでいく所存だ。

円(1万2千円分)を1万セット販売。平成24、26年度の3カ年を予定し、本年は8月下旬の販売開始を目標に準備を進める。2つ目は、「危険ブロック塀等除却事業補助金」の拡充。これまで、スクールゾーンにのみ限定されていた制度を市内全域に拡大する。一定条件を満たす危険度の高いブロック塀などの除却を促進し、児童・生徒をはじめとする市民の安全確保を目指す。補助額は、1件当たりブロック塀などの面積(㎡)×4千円で上限15万円。平成24、26年度の3カ年を予定している。このほかにも、全国から寄せられた寄付金をもとに、市独自の復旧・復興事業も展開している。「住宅災害復旧等補助金」は、被災住宅などの復旧を行う所有者に工事費の一部を助成し、住宅の早期復旧を図るもの(上限30万円)。5月31日現在、31件の申請に対し約390万円の決定を行った。放射能対策は、「放射線測定・除染対策事業」により空間放射

線量、食品などの放射能測定を実施するとともに、除染実施計画に基づき迅速かつ効果的な除染を実施している。さらに、「焼却灰排出抑制事業補助金」を設置し、高濃度に汚染された薪の焼却灰排出を抑制するため、各家庭の風呂の燃焼方式を薪からガス・石油などの方式に改修する場合に、改修費用の一部を助成する事業を開始する。工事費の2分の1に相当する額(上限10万円)を補助する(詳細は39ページ掲載)。「震災等緊急雇用対応事業」は、震災の影響により離職を余儀なくされた方々に対して、次の雇用までの短期雇用や就業の機会を創出・提供する。平成24年度の新規雇用者数は111名を予定している。

復興へ 皆さんとともに

市は、これからも市民の皆さんと力を合わせながら、震災による風評や自粛ムードに負けず、元気に復興に向けて邁進し、白石市が早期に震災前の活力を回復して、市民が安全で快適に過ごせるまちとなるよう全力を尽くす。

全国からの支援に届けるためにも、市民の皆さんとともに復興を成し遂げたい。



1_白石インター工業団地(福岡深谷)に建設が進められているセコム工業株式会社新本社工場(6月14日撮影) 2_津波の被害を受けた名取市の農家が白石で再起。チンゲンサイの生産に取り組む(平成23年12月15日撮影) 3_白石城災害復旧工事を公開。復興の鼓動を感じることができる

～全国から届いた1億の心に届けるために～ 国・県の制度を活用するとともに、白石独自の復興事業を実施

東日本大震災に係る復興寄付金	76,916,187円	(332件)
白石城復興寄付金	16,002,297円	(229件)
ふるさと納税寄付金	1,494,400円	(17件)
合計	94,412,884円	(578件)

※平成24年5月31日現在。ふるさと納税寄付金は、寄付の目的に「震災復興」などの記載があるもの。

国や県の支援制度(復興特区制度・交付金)を積極的に活用

平成23年12月に成立した「東日本大震災復興特別区域法」では、被災地での各種規制緩和や税制優遇、土地利用手続きの簡素化、復興事業の裏付けとなる復興交付金創設などが盛り込まれた。白石市も各種支援制度の対象となる「特定被災区域」に指定され、県などと連携して企業に対する規制緩和と税制優遇、国の「復興交付金」や県の「復興基金交付金」などの活用により各種復興事業の実施を推進している。

平成24年2月には、白石インター工業団地など5カ所が「復興産業集積区域(宮城県民間投資促進特区)」に認定され、自動車関連産業など「ものづくり産業8業種」の企業が、各種規制緩和や税制優遇を受けられることになった。

また、国が費用を全額負担する「割増商品券」「ブロック塀除去」など市独自の事業も実施

市では平成24年3月、県からの交付金をもとに「白石市東日本大震災復興基金」を創設。総額1億5千万円となるこの基金を財源に、独自の震災復興事業を実施していく。

1つ目は、「白石市震災復興

「割増商品券」の発行支援。市民生活の回復と事業者復興を支援するため、白石商工会議所が発行する2割増商品券「白石城下」「2割増盛」商品券」の割増分を助成する。商品券は市内の商店・スーパーなどで使用でき、1万

市では今後も、可能な限り多くの事業採択を目指し、白石の復興に取り組んでいく。

2つ目は、「造成宅地滑動崩落緊急対策事業」。震災で大きな被害を受けた緑が丘・虎子沢山地区(グリーンタウン)の地滑り対策として、滑動崩落を防止するため、杭工、ボーリング工を施工し、宅地地盤の安定化を図る。総事業費は平成24・25年度の2カ年で約4億3千万円となっている。

市では今後も、可能な限り多くの事業採択を目指し、白石の復興に取り組んでいく。



全国からの支援の心に応えるため
未来を担う子どもたちのため
市民が共に支え合い
ふるさと白石に誇りを持てるまちを築いていく

(写真) 園庭で元気にはね回る越河保育園の園児たち(平成24年6月15日撮影)

6月14日、東日本大震災の発生以降、園庭での活動を控えていた越河保育園の園児たちが、1年3カ月ぶりに園庭で元気に遊んだ。園庭の覆土や砂の入れ替え、保育園に隣接する山林の剪定などの除染作業が終了し、空間放射線量の低減が確認されたことから、時間を決めた園庭での活動を再開した。ブランコや滑り台、砂遊び…。待ちに待った外遊びに、園児たちは夢中になっ

てはね回った。
震災を経験し、私たちは当たり前であることがどれほど尊いことかを思い知らされた。しかし、それと同時に、人は支え合いながら生きているということも実感した。

ライフラインの復旧など復興への基礎ができつつある今、市民が共に支え合い、ふるさと白石に誇りを持てるまちを築いていくことが求められている。全国からの支援の心に応えるために、子どもたちが大人になっても「白石だいすき」と言ってもらえるようなまちにしていきたい。復興への足音を止めてはならない。

復興への道程はこれからも続く。一人一人が復興を成し遂げたいと思える日まで。

特集 「復興への道程」おわり